

2024(令和6)年度 福岡女子大学 一般選抜個別学力検査

〔 後期日程試験問題 〕

国際教養学科

小論文

【 90 分 】

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 問題は4ページから11ページにあります。問題は全部で2題です。
- 3 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 4 試験開始と同時に解答用紙の受験番号欄に受験番号を記入してください。
- 5 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

問題 次の文章を読み、以下の問一と問二に答えなさい。

例えば、「政治家が、自分の支持者を代表している」という文の意味を考えてみよう。まず思い浮かぶのは、「政治家が、自身に投票した有権者の意見に従って立法活動を行っている」という意味ではないだろうか。政治家が、この意味で有権者を代表する場合、左派的な有権者の多い選挙区から選出された議員は左派的な政策を掲げ、右派的な有権者の多い選挙区から選出された議員は右派的な政策を掲げるだろう。この考え方を議会全体に当てはめれば、有権者の間の意見の分布が、国会議員の間の意見の分布と重なっているかどうかが政治体制の特徴を判断する上での重要な基準となるに違いない。このような意味での代表を、一般に実質的代表 (substantive representation) と呼ぶ。

シユンペーターの民主主義の概念の特徴は、こうした形での実質的代表が不可能であるという認識の下、代表という考え方そのものを端的に民主主義の定義から取り除いたことにある。そして、その態度は、ダールのポリアーキー概念(注)にも継承されている。ポリアーキーがポリアーキーである所以は、あくまで普通選挙が競争的に行われていることにある。仮に有権者の意見が立法に反映されるとしても、そのことはポリアーキーの帰結であって、定義そのものではない。

以上のような実質的代表の考え方に対して、「その政治家が、自らの支持者の社会的な属性と同じ属性を持っている」という意味での代表の概念がある。政治家が、この意味で有権者を代表するのであれば、経営者が経営者を、労働者が労働者を代表し、民族的多数派が民族的多数派を、民族的少数派が民族的少数派を代表する。そして男性が男性を、女性が女性を代表するであろう。代表性の確保された議会とは、議会の構成が、階級、ジェンダー、民族などの要素に照らして、社会の人口構成がきちんと反映されている議会である。このような意味での代表を、描写的代表 (descriptive representation) と呼ぶ。

この描写的代表も、シュンペーターやダールの議論においては、重視されてこなかった。一つには、政治家は何らかの意味で有権者に比べて高い能力を期待される以上、選挙による指導者の選抜を、描写的代表と両立させることは限界がある。また、競争的な選挙が行われるということ自体が、描写的代表の確保とは必ずしも両立しない。こうした事情もあつてか、このような代表の概念をめぐる対立は、従来の多くの政治学の教科書には記されてこなかった。だが、ジェンダーの視点から見た場合、描写的代表が確保されることは政治において決定的に重要な役割を果たす。男性ばかりが議席を占める議会は、女性を代表することはできない。女性を適切に代表するには、一定以上の数の女性議員が必要であろう。アン・フィリップスは『存在の政治』（一九九五年）の中で、こうした考え方に基づく政治を、存在の政治（politics of presence）と呼んでいる。有権者が自分の好む公約を掲げる政党に票を投じ、政党がその公約に従つて政策を実行するという意味での理念の政治（politics of ideas）では、不十分なのである。

なぜ、存在の政治が必要なのか。それは、描写的代表なくして、実質的代表を確保することができないからである。第一に、選挙戦において政党間で争点となるのは、様々な政策争点の中のごく一部にすぎない。それ以外の争点に関する意思決定については、政治家が幅広い裁量を行使することになる。その場合、女性にとっては、同じ経験を共有する女性政治家の方が、男性政治家に比べて、自分の意見をよりよく反映すると想定できる。

第二に、それまで争点化していない問題を争点化できるのも、女性の経験を共有する女性政治家が存在するからこそである。女性の多くが関心を持つ問題は、男性が関心を持ちやすい争点の陰に隠れて、長らく政治の争点から外されてきた。従来は隠れていた争点が浮上することで、女性の意見も、男性の意見と同じように、政治に反映されるだろう。この描写的代表と実質的代表の因果関係についてのフィリップスの仮説は、今日まで数多くの研究を生み出してきた。

このように考えれば、代表者の男女比が均等に近いほど、その政治体制は民主的であると考えられる。女性が多すぎて、男性が多すぎても、その政治体制は民主的とはいえない。ジェンダーの視点から眺めることで、代議制民主主義を標榜する既存の政治体制に対する評価も、従来とは大きく異なってくる。

政治学において、男性による支配は、長らく当たり前のこととして受け止められてきた。市民全員の参加に基づく直接民主主義が行われていた古代ギリシャの都市国家では、女性には市民権がなく、したがって意思決定への参加が認められていなかった。代議制民主主義が生まれたヨーロッパでも、参政権は長らく男性の手に握られ、女性はそこから排除されてきた。

その後、女性参政権の獲得が明らかにしたのは、ポリアーキーの下でも政治の男性支配は続くという事実であった。たとえ選挙権が男性と女性の両方に与えられていても、政治家を選ぶ際には、男性の候補者が選出される。つまり、選挙権の獲得は、男女平等な民主主義のための必要条件ではあっても、十分条件ではないのである。そのことは、普通選挙権を獲得したフェミニストたちに大いなる失望を味わわせることになった。

(中略)

日本の場合、一九四五年に女性参政権が導入され、翌年の総選挙では公職追放で多くの現職議員が姿を消したこともあって、三九人の女性議員が当選して議席の八・四％を占めたものの、それ以降女性議員は急速に姿を消し、一九九〇年頃までほとんど伸びを見せなかった。今日でも、衆議院における女性議員の割合は一九四六年とそれほど変わらない。

標準的な政治学の教科書において、政治的競争の自由化を通じたポリアーキーの成立は、政治的自由が保障されるという意味で、望ましい帰結をもたらすと考えられている。しかし、ジェンダーの視点から見れば、その評価は一概

には言えない。なぜなら、自由化が女性の代表性の向上につながるかどうかは、新たに参入する政治勢力が旧来の支配者層に比べて強い男女平等志向を持っているかどうかに依存するからである。

確かに、男性の支配する政治体制が自由化され、男女平等の理念を掲げる勢力が参入した場合、自由化は女性の進出をもたらすだろう。韓国の場合、民主化以前は女性議員がほとんどいなかったのに対して、一九八七年の民主化後には女性運動が各政党に女性の代表性の向上を訴え、二〇〇〇年代からは国会議員の女性比率が日本の衆議院を持續的に上回っている。台湾の場合、国民党の一元支配の下で一定数の女性が立法院に立法委員として議席を得ていたが、一九九〇年代に政治体制の自由化が進む中で野党の民進党が女性運動と連携したことで、女性議員の起用が急速に進んだ。その結果、今日では議員の四割近くを女性が占めている。(中略)これらの事例ではジェンダー・クォータが女性議員の増加を後押しした。

しかし、民主化後に参入した勢力が男性優位主義的な志向を持つ場合には、むしろ女性の退場が促進されてしまう。特に、中東欧の旧共産圏では、一九八九年のベルリンの壁の崩壊と冷戦終結を契機に、各国で共産党の一元支配が崩壊する中で、女性議員の割合が劇的に低下した。共産主義体制下での女性の社会進出への反動として、家庭における女性の役割を強調する価値観が広まる一方で、新たに登場した政党は軒並み男性の候補者を優先的に擁立した。

(中略)

このように見てくると、ポリアーキーそれ自体は、女性を男性と平等に代表するには、それほど役立つことが分かる。少なくとも、男性優位のジェンダー規範が働く環境の下では、政党間の自由競争は、事実上、男性の間の競争となる。それは、一切の競争を認めない独裁体制に比べれば民主的な政治体制であるのかもしれないが、市民の間の平等を旨とする民主主義の理想からは程遠い。

ジェンダーの視点から政治体制を見直すことは、これまで民主主義と呼ばれてきた政治体制の評価を大きく変える。そして、政治体制の歴史や民主主義の歴史を見直すきっかけを提供する。

(前田健太郎『女性のいない民主主義』より。一部改変。)

(注) 著者によれば、「民主主義とは、市民の意見が平等に政策に反映される政治体制を指す。今日の世界における様々な政治体制の中で、相対的に民主主義体制に近いものを、ポリアーキーと呼ぶ」。

問一 本文中の傍線部 「描写的代表なくして、実質的代表を確保することができない」とあるが、描写的代表と実質的代表の相違点について、本文の趣旨に沿って四〇字以内で述べなさい。

問二 本文中の傍線部 「ジェンダーの視点から政治体制を見直すことは、これまで民主主義と呼ばれてきた政治体制の評価を大きく変える」とあるが、あなたはジェンダーの視点からみて日本の政治にはどのような問題点があると考えますか。本文の内容を参考に、現状と対策について八字以内で述べなさい。



